

なっきょん

2013 春



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

奈教の国際交流

～国際感覚を持った教員になるために～

羅針盤

京阪奈三教育大学連携

～三大学の教育機能強化へ向けて～

ラボ・レーター

数理統計学 高木祥司研究室

なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ

番外編～大学公式ホームページ～

ブカツ魂!

合唱団コールグレイス



奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION

<題字>名譽教授 池田 桂鳳



CONTENTS

2 特集

奈教の国際交流

～国際感覚を持った教員になるために～

7 留学生レポート

ブカレスト大学(ルーマニア) 新谷太一さんとヴィシヤン フロリナ ダニエラさん

9 クローズアップ

史料から読み解く歴史—平安時代史を研究する今正秀准教授

12 羅針盤

京阪奈三教育大学連携～三大学の教育機能強化へ向けて～

15 ラボ・レター

数理統計学 高木祥司研究室

16 hito・are・kore

小学校の特別支援学級教諭として奮闘する猪澤由起子さん

17 なっきょん's CLUB企画

奈教のひみつ 番外編～大学公式ホームページ～

19 キラリ☆奈教生

自由に語り合って大学活性化 ～大学懇談会実行委員の取組～

20 フカツ魂!

合唱団コールグレイス

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました! 奈教で得たもの



表紙のはなし

国際交流

表紙の写真は、国際交流室畳スペースでちゃぶ台を囲んでの一幕。

国際交流室は、日本人学生と留学生に気軽に交流してもらえるよう、設置されています。空き時間や休み時間、授業後などに、気軽に立ち寄ってみてください。留学生と交流することで、日本の文化を見つめ直したり、勉強し直したりするきっかけをつかむことができ、語学以外に得られるものもたくさんあります。





奈教の国際交流

～国際感覚を持った教員になるために～

今、社会全体で国際化が叫ばれています。学校教育現場でも、平成23年度より、小学校において第5・第6学年で年間35単位時間の「外国語活動」が必修化されるなど、国際化の取組が進められ、国際感覚を持った教員が求められています。

奈良教育大学では、学内での国際シンポジウムや留学生との交流、海外への留学など、学内外でのさまざまな国際交流の機会が設けられています。今回は、そんな国際交流の状況やそれを支援する制度や取組を紹介します。

副学長（国際交流・地域連携担当） 加藤 久雄

「国際交流」とは何でしょうか。協定大学などに留学して、1年間じっくりと勉強してくること。協定大学などから来ている留学生のチューターなどをして交流し合うこと。国際シンポジウムに参加し学びの成果を発表すること。部活の留学生とともだちになること。大学には、実にさまざまな「国際交流」の舞台があります。

英語ができない、言葉が通じない、かえって迷惑になるので

はないか、留学なんてはじめてから考えていない。そんな不安や引込み思案を取り払って、「国際交流」の舞台に立ってみませんか。

舞台に立つと、今まで見ていなかった角度から客席やら舞台裏やらが見えてきます。舞台裏はあなた自身かもしれません。

奈良の地は、1300年前から国際交流の地です。大学では、国際交流のさまざまな「舞台」にみなさんが主役となって立つことを支援しています。

国際交流協定校

本学では、学生や教員の交流等を目的として、7カ国11大学と国際交流協定を締結しています。

国名	大学名	締結年月日	国名	大学名	締結年月日
アメリカ	ロックヘイブン大学	昭和61年 7月11日	中国	西安外国語大学	平成17年 6月30日
ドイツ	ハイデルベルク大学	平成 5年 4月 1日	インドネシア	インドネシア教育大学	平成17年12月 5日
アメリカ	セントラルミシガン大学	平成 8年 7月30日	中国	華東師範大学	平成21年 7月27日
韓国	嶺南大学校	平成11年 2月 8日	韓国	公州大学校	平成21年 8月24日
ルーマニア	ブカレスト大学	平成11年 3月 9日	韓国	光州教育大学校	平成22年 6月15日
フランス	リヨン第三大学	平成16年 3月 3日			

国際シンポジウム等

国際シンポジウムなど、海外の研究者の研究成果の発表を聞いたり、日頃の研究成果を国際的な場で発表したりする機会があります。

<第5回百済文化国際シンポジウム>

本学と公州大学校（韓国）は、平成24年12月15日に本学を会場として、東京学芸大学との共催で第5回百済文化国際シンポジウムを開催、一般の方や学生を含めて約80名が参加しました。

このシンポジウムは、百済と日本の文化に関する研究交流を通じて、日韓関係の歴史的理解を深め、より確かな国際交流の絆を築いていくことを目的としており、平成20年に公州大学校で開かれた第1回以来、毎年開催されています。

日韓それぞれの歴史や文化などについて、日韓の教員が最新の研究成果を発表、本学の大学院生2名も学術的充実度の高い発表を行い、注目を集めました。

<国際的なシンポジウムや研究の一例>

- ・平成24年3月14日 『人権・シティズンシップ教育に関する研究フォーラム』
講演：ロルフ・ゴロップ チューリッヒ教育大学教授
- ・平成24年2月14日 『教員養成プログラムの開発に関する国際シンポジウム』
講演：ハンス・ユルク・ケラー チューリッヒ教育大学副学長
姚偉梅 香港教育学院学校連携・実習室副室長
朴南基 光州教育大学校学長
- ・平成19年～ 『バルシューレ 一幼児のためのボール遊びプログラム』
ドイツのハイデルベルグ大学で開発された運動プログラムを、ハイデルベルグ大学研究員と共に検討し、日本に紹介。NPO法人バルシューレジャパンを設立し、日本での普及に努めています。



国際交流イベント

本学に在学する留学生と日本人学生とが交流するきっかけにしておうと、毎月一度国際交流イベントと称し、さまざまな体験型イベントを開催しています。これまでに、若草山ハイキング、平城宮跡散策、夏の溪谷ハイキング、実習園での田植え～稲刈り～餅つき、社会見学(裁判所、県議会など)、たこあげなどを実施、留学生と日本人学生が交流できるだけでなく、日本や奈良の自然、文化などを体験することができると好評です。

日本人学生

私が最初に国際交流イベントに参加したのは、夏にあった平城宮跡をめぐるツアーでした。そのとき私が感じたことは、自分が日本の歴史や文化のことをほとんど知らないということです。留学生の中には、自分の国の歴史などを詳しく語ってくれる人もいましたが、私は自分の勉強不足を痛感しました。留学生と一緒に活動することで、自分のことがよくわかる、そんなことを感じながら、交流イベントを楽しんでいます。



教育学部
学校教育教員養成課程
伝統文化教育専攻1回生
(長野県松本県ヶ丘高等学校出身)
上村 優奈さん

留学生

とても楽しいです。毎回都合があえば必ず参加しています。日本人の学生と交流することができ、日本人の友達もできました。またさまざまな日本の文化にも触れることができ、とても貴重な体験をすることができています。日本で体験したいことがいろいろあるので、これから是非参加したいです。



パウエル セバスチャン
Pawel Sebastian
グロマツキ
Gromadzki さん
(ポーランド)



稲刈り

田植え



若草山ハイキング



夏の溪谷ハイキング

留学生が参加している部活

文化系

漫画研究会

美智子さんに、漫研で充実した日々を過ごしてもらい、勉強になったと思ってもらえるようにしようと考えようになり、これまでと意識が変わりました。美智子さんは、漫画を描こうとする意識がすごく強く、私たちも負けないように勉強しており、大きな刺激になっています。美智子さんにも私たちも漫画に対する情熱は同じ、文化の違いなんて感じません。これからは、4月の新入部員獲得に向けて、共に頑張りたいです。

教育学部
学校教育教員養成課程
身体・表現コース2回生
(私立帝塚山高等学校出身)
越浦 紫帆さん

ファウザー
美智子さん
(ドイツ)



留学前から漫画を描いていました。ドイツでも漫画ははやっていますが、漫研のようなクラブはまだ少なく、ぜひ入部したいと思っていました。漫研の皆さんはとても優しく良い雰囲気、楽しく活動しています。今は、部誌に掲載する作品を描いていて、私は、友達をテーマに制作しています。本当に楽しい部なので、みんなでちょっとした旅行に行ければと思っています。





講義棟内に「国際交流室」が設けられており、日本人学生と本学に留学している各国の留学生とが交流するための設備がそろっています。

【基本情報】

- ・開館時間：平日 8時～20時
- ・場 所：講義3号棟 1階（学生ロッカー室東隣）

入口横の廊下側には伝言板が設置されており、日本人学生と留学生の出会いの場を提供しています。この掲示板を利用して、互いの言語を教えあう仲間を探したり、一緒に出かける仲間を探したりすることができます。



大きな机が設置されていて、広々と自由に交流することができます。



本棚には、小説や日本文学、漫画など留学生と交流しやすい書籍が用意されており、室内で自由に読むことができます。また、旅行関係の書籍や国際交流協定校に関する資料もそろっているので、留学や海外旅行を考える際に役立ちます。



国際交流に利用できるように、ノートパソコンを設置しています。そのうち1台には、ウェブカメラが設置されているので、スカイプなどインターネット通話を利用することができます。



日本文化に触れることができるように、畳スペースが設けられています。また、さまざまな邦画のDVDがそろっているので、ここでちゃび台を囲みながら鑑賞することもできます。



留学生懇談会

新しく来た留学生を歓迎すると同時に、在籍する留学生と日本人学生、教職員との交流を深める良い機会にもらうために、毎年留学生懇談会を開催しています。学生食堂で開かれる懇談会には、留学生や日本人学生、学長をはじめとする教職員、学外から留学生を支援していただいている団体や個人の方が出席し、交流を深めます。役員や来賓の方の挨拶、新しく来た留学生の自己紹介、歌や踊りなどの余興が行われ、おおいに盛り上がります。



体育系 女子バレーボール部

チリでは趣味でバレーボールをする程度でしたが、高校生で日本に留学した時に入ったバレー部での楽しい思い出が忘れられませんでした。今回の留学でもバレー部に入りたいと思い、バレー部を見学しました。とても楽しくて雰囲気が良く、入りたいという気持ちが強くなりました。練習はかなりハードですが、楽しいので辛いと感じたことはありません。まだまだ試合には出られませんが、応援で少しでもみんなの力になりたいです。

アルディレス
Ardiles
ヴァレンティーナ
Valentinaさん
(チリ)



教育学部
学校教育教員養成課程
言語・社会コース3回生
(徳島県立富岡西高等学校)
あべ
安部 ひかりさん

ヴァレンティーナさんが新しく入ってきてくれたことで、チームのみんなが何とか楽しくしてあげようとして、チームの雰囲気が一段と良くなりました。いつも楽しくやらせてもらっています。練習において、留学生だからと感じることはあまりなく、こちらにあわせてくれているんだと思います。



留学制度・支援



< 留学プログラム >

種別	留学先	期間	派遣人数	内容
交換留学	ロックヘイブン大学 (アメリカ)	8月下旬～ 翌年5月上旬	各大学 2名程度	語学や専門的学習
	セントラルミシガン大学 (アメリカ)			
	ハイデルベルク大学 (ドイツ)	9月～翌年8月		
	ブカレスト大学 (ルーマニア)	10月～翌年9月		
	リヨン第三大学 (フランス)	8月～翌年7月		

※上記は一例であり、派遣留学制度のすべてではありません。

< 留学の一連の流れ >

留 学 前

●派遣留学説明会／帰国報告会

→留学から帰国したばかりの先輩や本学に留学している留学生から、現地での授業や生活の様子などを直接聞くことができます。また、留学生担当職員より、派遣留学制度についての説明もあります。

●派遣留学応募

→翌年の夏秋出発の派遣留学生を11月頃に募集します。書類と面接による選考が行われます。(学業成績や語学力について一定の条件があります。)

●スタートアップミーティング

→派遣留学生として決定した学生どうしが顔合わせをします。また、本学に留学中の協定校からの留学生とも顔合わせを行い、現地の様子を直接聞いたり留学後に現地でも交流できるよう親交を深めたりします。必要書類など手続についての説明も行われます。

●派遣留学生壮行会

→教員からの激励や留学中によくあるトラブルなどの注意説明があります。また、派遣留学生が留学にあたっての抱負を語り、これから始まる留学生活に向けて気持ちを奮い立たせます。

留 学 中

●メールマガジン

→大学や日本のニュース情報やリスク情報などが、定期的に大学よりメールで配信されます。また、各国に留学している派遣留学生から定期的に大学に近況が寄せられますので、その情報もまとめて配信されます。留学中も大学や他の派遣留学生の近況を知ることができるので、励みになります。



帰 国 後

●学長との懇談会

→学長や副学長らと留学体験について懇談します。経験豊富な教員らから、留学の意義や留学体験を今後どのように生かしていくかなどについて、アドバイスを受たり、他の留学経験者と情報を共有したりすることができます。また、ここでの意見を参考に、派遣留学制度の内容充実が図られます。

●帰国報告会

→留学先での体験を、留学を希望している後輩たちに伝えたり、質問に答えたりします。



担当職員からのメッセージ

街を歩いていて、外国人の方に道を尋ねられたことがありますか。

そんな時、あなたならどんな対応をしますか。流暢な英語で対応しますか。それとも流暢な関西弁で対応しますか。筆談しますか。身振り手振りで伝えますか。連れて行って案内してあげますか。はたまたその場から逃げ去りますか。

一言に国際交流といっても、それが自分自身に与える効果は様々です。

この道案内で言えば、臨機応変な対応力が問われます。日本語を話せない人に呼び止められた時、その人の動作や話し方などをしっかり観察して、その人が何を伝えようとしているのかを掴もうとする人。あるいは、わからないとその場から逃げ去ろうと思いつつも、そのまま逃げたら日本人の印象が悪いと、とりあえず笑顔で立ち去る人。これらの対応力は、コミュニケー

ション力とも呼ばれます。これまで話す相手の中心は、同年代の友人が多かった人も、社会に出れば老若男女を問わず多くの人とコミュニケーションをとる必要がでてきます。そんな時、国際交流を通して得た対応力がきっと役に立つでしょう。

国際交流は語学力がなければできないものでは決してありません。少しの勇気と笑顔があれば誰でもできます。ただし、待っているは何もできません。今、あなたが踏み出す小さな一歩が、きっとあなたの未来を変える大きなターニングポイントになることでしょう。

大学生の間に世界的な視野で自分を変えてみませんか。奈良教育大学では、協定校への留学や世界からの留学生との交流機会を提供して、そんな皆さんを全力で応援しています。

学生支援課留学生担当 **細野 剛史** ほそ の つよし

< 費用 >

留学するにあたって、気になることのひとつが費用ではないでしょうか。本学の協定校に留学していた方や留学中の方に、1年間にかかるおおよその費用を聞きました。協定校への留学の場合、本学へ授業料を納める必要がありますが、現地での授業料は免除されます。なお、留学先での旅行や生活スタイル等によって費用に個人差がありますので、あくまで参考値です。(派遣国までの渡航費は含まれていません。)

●アメリカ合衆国

セントラルミシガン大学 (Kさん 2011.8～2012.5)
約100万円 (宿舍費約50万円、食費約10万円、その他約40万円)

ロックヘイブン大学 (Fさん 2011.8～2012.5)
約130万円 (宿舍費約40万円、食費約25万円、その他約65万円)

●ドイツ

ハイデルベルク大学 (Kさん 2011.9～2012.8)
約130万円 (宿舍費約16万円、食費約36万円、その他約78万円)

●フランス

リヨン第三大学 (Tさん 2010.9～2011.5)
約100万円 (宿舍費約40万円、食費約20万円、その他約40万円)

●ルーマニア

ブカレスト大学 (Sさん 2012.10～2013.9)
約48万円 (宿舍費約9万円、食費約29万円、その他約10万円) 見込み



留学生 レポート



- ① ロックヘイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学校
- ④ 公州大学校
- ⑤ 光州教育大学校
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ ブカレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学

Interviewee



教育学部学校教育教員養成課程
言語・社会コース 3回生
和歌山県立橋本高等学校出身

しんない たいち
新谷 太一さん

ルーマニア/ブカレスト大学 (留学期間 2012.10 ~ 2013.9)



スポーツフェス



バスケット仲間たち

⊕ 留学をしようと思ったきっかけは。

小さな頃から、世界の国についての本やテレビ番組が好きでした。大学生になり、尊敬できる教員や先輩、友人にさまざまな意見や話を聞かせてもらい、留学を決意しました。今思えば、「外国に行きたい」という想いが一番のきっかけです。

⊕ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

意識していたことは、少しでも良いので、毎日英語に触れることです。文法書や単語帳も使いましたが、遊び感覚で英文や気になるフレーズを読んだり、洋楽を聞いたりしました。ただ、留学中に語彙力不足を痛感したので、もっと勉強しておくべきでした。

⊕ 留学先ではどのような1日を過ごしていますか。

授業は、1日1~2個あり、週1で現地の学生がルーマニア語を教えてください。夕方からは、友人とご飯を作ったりバスケットをしたり、休みの日は、田舎に行き、大自然の中でのんびり過ごしています。また、週末ごとに友達と行くパブでは、いつも楽しい夜を過ごしています。

⊕ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

文化の違いです。例えば、部屋の床掃除の時、洗剤を撒き、拭き取るだけという方法に衝撃を受けました。他には、食べ物の味付けです。日本にはない香辛料や調味料が多くあるので、初めて食べるものにはいつも驚きました。しかし、これらの経験は自身の文化を見直す機会にもなりました。

⊕ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

話が通じたり、バスケットでパスをもらったりいろいろな形で友達と分かり合えた時が一番うれしかったです。大変なことは、言葉です。英語が通じない人も多く、買い物も一苦労でした。その反面、英語の有用性に気付くことができ、新しい言語を学ぶ楽しさもありました。

⊕ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

留学は間違いなく、私の人生の一つの契機です。多くの人々と出会い、多様な考え方に触れています。そこで得た知識・経験から、教師として、子供の成長を手助けしていきたいです。

⊕ 在学生、高校生の皆さんに一言。

留学は、辛いことが多く、覚悟も必要です。ただ、必ず自分の成長を促してくれます。少しの興味が、何事にも代えられない経験と時間につながっています。本当に留学して良かったと、私は思っています。皆さんもぜひ、挑戦してください！応援しています！



大学内の小路





ブカレスト大学 (ルーマニア)

本学の国際交流協定校の一つであるブカレスト大学 (1999年3月交流協定締結) は、ルーマニアの首都ブカレストにある大規模大学で、ルーマニアで最も権威のある大学の一つです。1694年に設立された王立学院の伝統を引き継ぎ、1864年に設立されました。

キャンパスはなく、ブカレスト中にさまざまな施設が設

けられています。特に大学本部はブカレストの中心にあり、ブカレスト国立劇場や国立歴史博物館に近く、周辺にはカフェや古本屋などがたくさん立ち並んでいます。

今回は、本学からブカレスト大学へ留学している新谷太一さんと、ブカレスト大学から本学に留学している Visan Florina Daniela さんに話を聞きました。



東大寺の前で



留学生の友達と琵琶湖で

⬆ 留学をしようと思ったきっかけは。

ブカレスト大学の入学式で、日本語の先生が日本に留学する機会があると言いました。それから、日本に行くことが私の夢になりました。競争がはげしいので、私にはチャンスがないと思ったんですけど、毎日がんばりました。3年後、私の夢が現実になりました。

⬆ 留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

ブカレスト大学で、3年ぐらい日本語を勉強していました。また、日本文学と日本文化も勉強しました。

⬆ 奈良教育大学の学生としてどのような1日を過ごしていますか。

奈良教育大学の学生の生活はとても面白いと思います。毎日留学生と一緒に食堂でご飯を食べたりします。週末も勉強して、その後、時々留学生や日本人の友人とカラオケや温泉に遊びに行きます。時間があれば、友達と一緒に料理を作ります。

⬆ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

今まで驚いたことの一つは日本のファッションです。伝統を守るために、日本人は近代的なものと伝統的なことを混ぜるのが好きだと思います。例えば、道を歩いていたら、女性は現代的な服を着ているんですけど、時々きれいな着物を着ている人も見ます。これは本当に美しいと思います。ルーマニアではそのようなことは無理だと思います。

⬆ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

いろいろな人と友達になれたことです。また日本のいろいろな所を訪ねることができて、本当に幸せです。

⬆ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

留学経験で私は日本と日本人についてもっと知るために勉強したり、日本の有名な所を見たいです。また、この経験によって自信が生まれると思います。

⬆ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

留学は本当に素晴らしいと思います。大切な思い出もできて、いろいろなチャレンジもあります。皆さん、留学する機会があったら、そのチャンスを逃さないでください。楽しんでみて、ね!



清水寺の前で



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

史料から読み解く歴史

歴史って、もう分かっていることばかりではないのでしょうか

教科書を見れば、原始・古代から現代まですべてのことが分かっているという印象をもちますね。しかし、そうだとすると、もう研究することはないということになります。

ところが、教科書の記述は書きかえられることがあります。私は高校で非常勤講師を2年間務めました。高校2年生を担当し、同じ出版社の日本史B教科書を使ったのですが、一年目と二年目で記述が大きく変わっていたところがありました。例えば、農耕の始まりについて、古い教科書でははじめは直播きしていたが、のちに田植えを行うようになったとありました。これは、私自身が高校で学んだことと同じでした。ところが、次の学年が使用した教科書では、早くから田植えが行われていたと書かれていたのです。私は考古学が専門ではないので、非常勤講師をする

にあたり新しい研究成果を学んでおく必要があると思い、その頃出版された一般向けの『大系日本の歴史①日本人の誕生』（佐原真・小学館）を読んでいました。そこには新しい教科書と同じことが書かれており、自分が高校で学んだ内容との違いに驚いたのですが、それが教科書記述に反映されたわけです。もし、その本を読んでいなかったら、私は教科書記述の変化を十分に理解できたかどうか。

教科書記述の変化は研究の進展を反映しています。研究が進展するということは、まだまだ分かっていること、考えなければならないことがあるということなのです。

著書でとりあげた藤原良房について、どんなことが分かっていたのでしょうか

藤原良房は、高校日本史教科書では必ずゴチック体で記されている人物の一人です。

現在使われている日本史B教科書では、[858(天安2)年に幼少の清和天皇が即位すると、良房は天皇の外祖父として臣下ではじめて摂政の任をつとめ]と書かれています。私が学んだ教科書(1977年改定検定済)では、「良房は、(中略)臣下ではじめての摂政となり」と書かれていました。「摂政の任をつとめ」と「摂政となり」と微妙に表現が違いますね。

さらに脚注で、現在の教科書は、「良房が正式に摂政の命を受けたのは、(中略)応天門の変の時である。しかし清和天皇は9歳で即位したため、実際は即位のはじめから天皇の外祖父であり太政大臣であった良房が、摂政の任を果たしたと思われる」とあり、私が学んだ教科書にも、ほぼ同様の記述がありました。では、良房が摂政になったのは、結局いつだと考えればよいのでしょうか。私自身高校で学んだとき、そんな疑問を感じました。

その後、大学で学ぶなかで、良房の摂政の始まりについて議論があることを知りました。



プロフィール

社会科学教育講座

准教授 こん まさ ひで 今正秀

専門は平安時代史。広島大学文学部、大学院文学研究科で学ぶ。著書に『藤原良房』（山川出版社 日本史リブレット 人）。現在『敗者の日本史 摂関政治と菅原道真』（吉川弘文館）を執筆中。



ずっと、藤原良房について探求していたのでしょうか

いいえ。良房の摂政についての史料は限られており、その理解もそれほど相違があるわけではなかったのです。にもかかわらず、なお議論があるということは史料的な決め手に欠けるためだろう、そのような課題に納得のいく理解を得るのは難しいと思ったのです。

良房の摂政について考えるきっかけとなったのは、一つは私の恩師である坂本賞三先生（広島大学名誉教授）が1991年に関白について、誰もが知っている史料を読み込むことから関白とは何をしていったのかを明らかにされたことです。関白は天皇を補佐すると説明されてきましたが、補佐の内容を明らかにされたのは坂本先生が初めてでした。いま一つは1993年に九州大学の坂上康俊さんが発表された論文です。この論文で坂上さん

は、摂政・関白を任命する天皇の詔勅を整理し、摂政と関白が成立の当初から区別されていたと論じられました。それまでは、初期の良房やその次の藤原基経の頃の摂政と関白には明確な区別はなかったと考えられていたのです。が、坂上さんは、これまた誰もが知っている史料を丹念に、厳密に跡づけることで、それまでの理解をみごとに覆されたのです。

であれば、同じように摂政についての詔勅から、良房の摂政について新しい理解が得られるかも知れないと考え、初期の摂政に関する詔勅などの史料を読みなおしていききました。

それで、どんなことが分かったのでしょうか

1997年に摂政制の成立について書いた論文では、清和天皇が即位したときから良房は摂政の役割を果たしていたと論

じました。先ほどの教科書記述でいえば、「摂政の任をつとめ」というのが私の理解により適合的です。併せて、教科書の脚注にあった、その後良房を摂政に任命したという詔勅の存在をどう考えればよいのかについても論じました。

その論文を書く中で、では、良房の摂政の終わりはいつだったのかという課題が新たに生じました。摂政は幼少の天皇に代わって政治を行い、天皇が元服して成人となれば摂政は辞任し、あらためて関白に任命されて天皇を補佐する、というのが一般的な理解だと思います。確かに、3人目に摂政となった藤原忠平以後はそうなのですが、良房は清和天皇が元服したあとも摂政を辞めていないというのがこれまでの理解でした。最初の論文では、その点について明確な考えを導き出すことができなかったのですが、それは史料の読み込みの不足が原因でした。あらためて史料を読みなおしていくなかで、すでに読んでいた史料の、十分に意



『藤原良房』
（山川出版社 日本史リブレット 人）



藤原良房邸宅推定跡地に残る井戸（京都御苑）。良房時代のものではないが、「染殿井」の名は良房の邸宅名に由来します。



を留めていなかった文言にその答えが示されていたことに気づいたのです。2009年の論文では、良房は清和天皇元服にともない、摂政を辞する意志を示していたことを明らかにしました。そうすると、摂政は天皇が元服すると辞めるというあり方は良房の段階ですでに考えられていたことになります。これも、新しい発見でした。

ところが、良房の摂政を辞するという意志を清和天皇は認めなかったのです。良房の次の摂政藤原基経も、陽成天皇が元服したとき摂政辞表を出しましたが、これも認められませんでした。しかし、清和天皇はのちに、摂政は幼少の天皇に対するものだとはっきり述べているのです。これをどう考えればいいのかという新しい課題が生じたのです。

政治史の課題は、下手をすると力関係や状況論で説明されてしまいがちです。が、そうではなく、当時の天皇も、良房や基経自身も、また彼らと同じ貴族たちも、いわば当事者が納得できる理由、論理を見つけられないかと考えたのです。私なりに得た理解の妥当性については、拙著をご覧ください。

歴史研究のおもしろさと学生へのメッセージをどうぞ

歴史研究は残された史料から過去のできごと、史実を復元し、復元された

史実相互の関係を考え、それを広げ深めることで一つの時代像や社会像とその変遷を明らかにすることを課題としています。そうした研究のあり方に照らせば、歴史研究の醍醐味の一つはこれまで知られていなかった新しい史実を掘り起こすことでしょう。いま一つは、これまでよく知られていた史実について再検討し、新しい解釈や意味づけを示すことです。摂政制、摂関政治についての私の研究は後者です。場合によっては、誰もが知っている史実の解釈や意味づけを書きかえるというのは、新しい史実の発見よりもワクワクするものです。今は、菅原道真について、そうした作業を進めています。

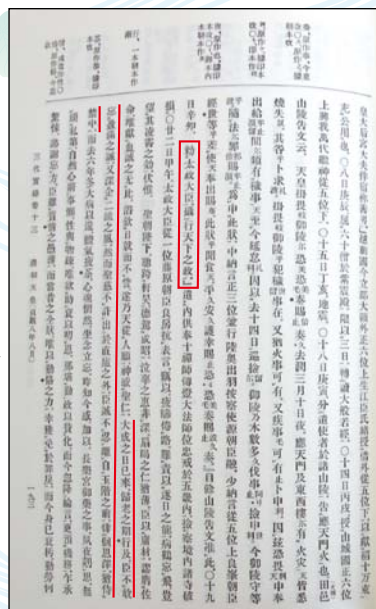
ただし、新しい見解が多くの研究者の支持を得られるかどうかは、史料の読み方の正確さや深さ、史料からの史実復元や、史実相互の関係を考えるときの論理の確かさにかかっています。その意味では、研究者の姿勢や資質が厳しく問われるのです。

それは、歴史研究だけでなくすべての分野の研究についてあてはまることだと思います。また、研究の成果を次世代に伝えていく教育についても同じことがいえると思います。教科書のほんの数行、あるいは数文字の短い記述であっても、その意味を本当に理解するためにはたいへんな努力を必要とします。さらに教育においては、自分が理解すればよいだけ

ではなく、それを他者が理解できるように伝えることが求められます。教科指導における教材(教科内容)研究と授業構成(授業法)研究です。

最近、「学び続ける教員」の育成が強調されていますが、個人的にはことさらにそのようなことをいわなくても、学びを促す者自身が学ばないことなどありえないと思っています。そして、学びを支えるのは学ぶこと自体がおもしろいという実感であり、分からなかったことが分かったときのよろこびです。私も含め研究者が研究を続けるのは、それに魅せられているからです。教員をめざすみなさんは、学ぶことの意味とおもしろさ、厳しさ、分かることのよろこびを大学での学びを通じて体感してください。そうすれば、それを児童・生徒に伝えることができるし、伝えたいと思うようにきつとなると思います。

私も、自身の研究と教育を通じて、学ぶことのおもしろさとよろこびをみなさんに伝えていくことができるよう、学び続けたいと思います。



『日本三代実録』
貞中ほどにある貞観年八月十九日条(枠囲み部分)には藤原良房に天下の政を摂行せよとの清和天皇の勅が、二十二日条にはそれに対する良房の辞表が載っています。辞表傍線部からは、清和天皇元服時に良房が摂政を辞しようとしたことが分かります。





京阪奈 三教育大学連携

～三大学の教育機能強化へ向けて～

京阪奈三教育大学連携の概要・現状

大学改革主幹 ^{むろたに ひろし} 室溪 浩

京都教育大学、大阪教育大学及び奈良教育大学の三教育大学は、平成22年7月に京阪奈三教育大学連携推進協議会を設置し、個々の大学がそれぞれの強みを持ち合いながら、大学の限られた人的・物的資源を相互活用し連携を図り、更に平成24年10月奈良教育大学に京阪奈三教育大学連携推進室を設置し、有機的な連携を推進しています。

連携推進協議会では、中期目標・計画に沿って連携協力事業を進めており、学生合同セミナーや教員採用試験説明会の開催及び教員の合同FD研修会等を行うとともに、事務職員SD研修の合同開催、物品の共同調達による経費の削減等にも取り組んでいます。

平成24年10月から新たに、テレビ会議システムを活用した双方向遠隔授業の本格導入に向けて試行実施を行い、平成25年度から本格的に運用してまいります。

また、三教育大学連携事業「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業—京阪奈三教育大学連携による教員養成イノベーションの創生—事業に取り組み、連携の強化を図ることとしております。

この事業は、教員養成の高度化に向けて、三教育大学がそれぞれの特色を生かしつつ重点的な課題に取り組むため、「教員養成高度化連携拠点」を共同設置し、京都教育大学は教員研修、大阪教育大学は教員養成の高度化、本学は次世代教員養成に向け、重点的に取り組み、地域レベルでの連携の構築と教員養成の高度化と質保証に向けて、三教育大学として取り組んでいく事業です。

京阪奈三教育大学連携推進室発足式・ 管理棟別館

京阪奈三教育大学の連携を円滑に進めるために、本学に「京阪奈三教育大学連携推進室」が設置され、その発足式が平成24年10月2日(火)に行われました。発足式には、長友恒人本学学長ら学内関係者をはじめ、文部科学省高等教育局大学振興課の鍋島豊教員養成企画室長、位藤紀美子京都教育大学学長、長尾彰夫大阪教育大学学長らが出席、三学長からの挨拶に引き続いて、鍋島室長、三学長による看板の除幕が行われ、同室の発足を盛大に祝いました。また式後には、テレビ会議システムを活用した最初の双方向遠隔授業である、大阪教育大学提供科目「学校安全」の授業を参観しました。

今回の同室発足に併せて管理棟別館が新たに整備され、テレビ会議システムや電子黒板などを備えた大会議室兼教室や同室事務室などが設置されました。大会議室兼教室では、それらのシステムを活用し、双方向遠隔授業や三大学間での会議、合同事務研修などが行われており、連携推進の中核を担っています。



- ① 除幕を行う(左から)長尾大教大学学長、長友本学学長、鍋島文科省教員養成企画室長、位藤京教大学学長
- ② 連携推進室看板
- ③ 大会議室兼教室内部
- ④ 挨拶する長友学長
- ⑤ 管理棟別館外観
- ⑥ 合同事務研修



双方向遠隔授業プロジェクト

双方向遠隔授業プロジェクト担当
准教授 ふる た たけひろ
古田 壮宏

■プロジェクト概要

近年、情報通信技術（以降、ICT）の急速な発展に伴い、小学校・中学校・高等学校等での情報機器等の利用が進むとともに、これまでの教授法や学びのあり方も変化しつつあります。このため、21世紀を担う子どもたちに求められる情報活用能力を育むには、教員を目指す皆さんにおいても実際の授業に生かせる ICT 活用能力を身につけることが求められています。

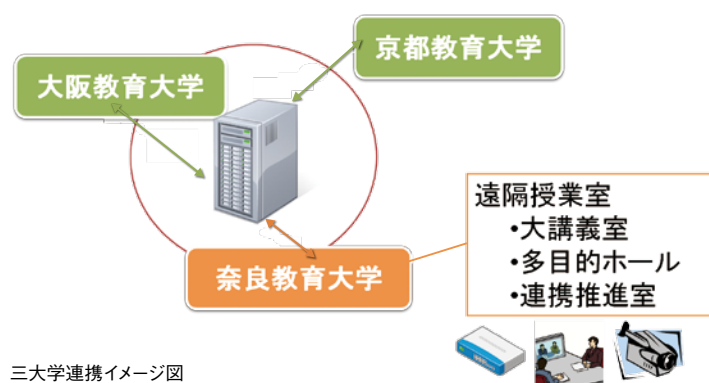
本学では、平成24年度後期より、京都教育大学・大阪教育大学と連携して、テレビ会議システム等の ICT 設備を活用した双方向遠隔授業をしています。京阪奈三教育大学はこのような授業への取り組みを含めて、右記のようなプログラムを開発していくことで、より高度な ICT スキルを持った教員養成を目指しています。

<http://ride0.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/>

■双方向遠隔授業の説明

奈良教育大学では、双方向遠隔授業実施のために、3つの教室でテレビ会議システムや電子黒板などを整備しました。これにより、大阪教育大学や京都教育大学とインターネット回線を通して、講義の内容や受講生の様子をリアルタイムで送受信することが可能になりました。

教員が講義を実施する際には、自分の大学および他の2大学の学生も同時に受講することとなり、教員は目の前に自分の大学の学生を、モニタ上に他の2大学の学生を見ながら授業を進めることができます。つまり、学生のみなさんは通常通り講義を受講すると同時に、他の2大学の学生は映像もしくはタブレット PC 等の情報端末を介して、教員と意思の疎通を図ることが可能です。講義や教員によっては、学生同士が映像等を介して議論等を行うことができます。



双方向遠隔授業風景

- ・最新テレビ会議システムを活用した双方向授業のためのモデルプログラム
- ・高度な ICT スキルを持った教員養成のためのプログラム
- ・ICT 支援員育成のモデルプログラム



双方向遠隔授業イメージ(送信)



双方向遠隔授業イメージ(受信)



■受講のメリット

このような双方向遠隔授業により、

- ・他2大学の授業を本学内の講義室で受講することが可能
- ・いずれの講義においても、他大学の学生と交流することが可能

になりました。

実際に、平成24年度後期の実施においては、京都教育大学の「性倫理と性教育」や大阪教育大学の「学校安全」といった講義を本学の学生が受講しました。また、1つの話題について各大学の学生が意見を述べたり、奈良教育大学の学生と大阪教育大学の学生とでグループを作りディスカッションしたりしました。

皆さんの積極的な参加により、三大学での講義がより活発なものとなることを期待するとともに、実際の授業内で ICT 機器利活用を体験してもらいたいと思っています。

受講生の声

『学校安全』（大阪教育大学担当）受講
教育学部学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 4回生

三重県立津高等学校出身

なが たかゆき
永田 崇之さん



「双方向遠隔授業は、他大学の授業という全く普段とは異なる環境に触れる機会として非常におもしろいものでした。異なる環境であるがゆえのやりにくさもなかったわけではありませんが、学生生活の最後にこのような機会に触れさせていただけたことに感謝しています。今後、制度的にさらに発展していくと、より効果的でおもしろみのあるものとなるのではないのでしょうか。」

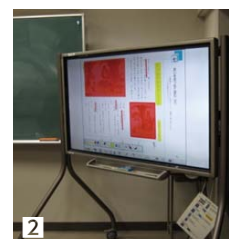
平成 25 年度前期双方向遠隔授業科目（予定）

学期	曜日	授業時間	授業科目名	教員名	対象年次	発信大学
前期	水	10：40～12：10	健康科学論	森 孝宏	1年～	京都教育大学
	火	16：35～18：05	学校安全	藤田 大輔	2年～	大阪教育大学
	木	8：50～10：20	科学の揺籃から離陸まで	木立 英行	1年～	
		10：40～12：10	生涯教育と人間形成	山田 正行	1年～	
	火	8：50～10：20	考古学と自然科学	金原 正明／青木 智史	1年～	奈良教育大学
		10：40～12：10	持続発展教育と世界遺産	中澤 静男	1年～	
		12：55～14：25	問題解決のためのコンピュータを用いたデータ分析入門	古田 壮宏	1年～	
	金	10：40～12：10	論理サバイバルと文学の中の科学	中村 元彦	1年～	

電子黒板や電子教卓を使ってみよう！

現在、学校現場では電子黒板などのさまざまな ICT 機器が導入され、学校の先生にはその利活用が求められています。学生のみさんが教員になった際に、これらの機器をスムーズに利活用できるように、本学内にもいくつかの部屋に電子黒板・電子教卓などを整備し、これらを用いた模擬授業ができる環境を準備しました。また、デジタル教科書の整備も進めています。これらを積極的に活用し、教員として必要な力を蓄えていってもらえるよう、期待しています。

教室名	利用可能な機器類	利用方法
203、204、205、209教室	電子黒板、電子教卓、プロジェクタ、書画カメラ、黒板	授業で利用されていない時間のみ利用可 連携推進室事務室で受付
図書館 グループ学習室	電子黒板、電子教卓、書画カメラ	空いていれば随時利用可 図書館カウンターで受付
管理棟別館 大会議室兼教室	電子黒板、書画カメラ、プロジェクタ、ホワイトボード	連携推進室事務室で受付



1 電子教卓・黒板
2 電子黒板
3 電子教卓





ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —
 学校教育教員養成課程 教科教育専攻
 数学教育専修
 (改組前: 学校教育教員養成課程
 理数・生活科学コース 数学教育専修
 総合教育課程 科学情報コース 情報数理専修)
 数理統計学
 たかぎ よしじ
 高木 祥司研究室

教育学部 学校教育教員養成課程 理数・生活科学コース 4回生



はらだ なお
原田 奈緒さん
徳島県立城北
高等学校出身



はまべ ゆう
濱部 由羽さん
山口県立宇部
高等学校出身



よしに みな
吉谷 三奈さん
鳥取県立鳥取西
高等学校出身

高木研究室の魅力

私たちの所属する数学教育専修・情報数理専修では、2回生末に研究室が決定し、3回生から週一でゼミを行います。ゼミでは、1冊の本を教科書に、確率統計について基礎となる部分を学んでいきます。教科書を学生全員で分担し、受け持ちの学生が先生として他の学生に説明するという方式で進めます。内容を説明する側の学生は、教えることの難しさを実感しながらも、「人に教える」ということについて考える機会を得ることができます。内容は簡単ではありませんが、発表することによって先生や友達の力を借りながらきちんと理解することができます。説明を聞く側の学生は発表に対して質問し、その質問について受け持ちの学生とともに全員で考え込むこともしばしばです。そのようにして、説明をする側の学生も聞く側の学生も共に知識を深めることができます。

4回生の夏休みには卒業論文のテーマを決めます。高木研究室では、学生の意見が最大限に尊重されます。後期からは、それぞれが興味に沿って研究したいことを集中して研究するため、個人でのゼミが中心となり、高木先生からマンツーマンで指導を受けながら進めます。もちろん、他の学生のゼミを見学することもできます。高木先生とマンツーマンで研究をしていくため、今まで以上に研究内容や確率・統計に関する事例について深く議論できます。高木先生は、小さな疑問にも丁寧に、自律を大切にされた対応をくださり、学生一人ひとりのことをよく考えてくださいます。このように、高木研究室は、先生と学生の距離が近く、学生が確率・統計について深く話し合うことができる環境が整っています。

また、最近の学習指導要領改訂により統計教育が注目されている今、確率統計について専門的に学ぶだけでなく、教育との結びつきを考えることのできる研究室となっています。

統計の利用

高木研究室に所属し始めた頃、確かに統計に興味はありましたが確率の方が好きでした。確率の方が計算方法が簡単だったのも1つの理由ですが、例題や問題のイメージがしやすかったからというのが大きな理由です。確率では、サイコロやくじ、袋に入れたボールなど身近な題材が多かったんです。

しかし、研究室で統計に触れる時間が増えると、実際に日常で使われているのは統計の方が多いんだと感じるようになりました。もちろん、推定や分析のような言葉を聞くことはあまりなくても、データから読み取れることはさまざまな場面で使われていると知りました。例えば、寒い冬ではなく寒くなる秋頃におでんがよく売れるということは意外な事実ですね。また、ある薬は効果があるか、商品の耐久性テストは信頼できるか、ということはどういうふうに考えられているのでしょうか。実はこれらに関しても統計は使われているし、もっと言えば医学や心理学、生物学など多様な学問で統計は使われています。実際に統計を学び、統計は身近に隠れた学問だと感じました。

卒業論文のテーマ

● ベイズの定理を基礎とした決定方式の適用

ベイズの定理を基とし、事前情報を用いた分類や判別について述べ、また、メールフィルタにおいて定理がどのように利用されているのかを考えた。タスク順序付けでは最尤推定法とベイズ推定法の比較を行い、ベイズ推定法の有効性を示した。

● 多重比較法の手法の比較

多重比較法の重要性和有意水準との関係、多重比較法の手法と適用状況などを述べた。また、多重比較法の中でどの手法がより棄却しやすいかを3つの場合に分け、例を使って検討した。

● 因子分析法について

因子分析法について、推定と因子回転を主にその方法と利用について例を挙げて考えた。

Student's Voice

私は主成分分析という多変量解析におけるデータの分析方法を研究しました。身の回りにある多くのデータについて正しく分析し、多くのことを読み取りたいと考え、この内容を研究しようと決めました。この先教員になった時も利用可能な分析だと思います。確率・統計というのは非常に身近な学問です。興味のある方は高木研究室を覗いてみてはいかがでしょうか。



総合教育課程
科学情報コース 4回生
おごう まんじろう
小河 万次郎さん



『ひと・あれ・これ』



— 活躍する卒業生を紹介 —



研修旅行 京都の与謝の海養護学校見学

現在、私は奈良教育大学附属小学校の特別支援学級に勤めています。障害のある子どもたちと毎日をあわただしく、けれど笑いながら過ごしています。子どもと同じ目線に立って競ったり遊んだりすることが、私にとっては何より楽しいです。そんな日々の中で、子どもたちのこれまで気づかなかった姿や成長を見つけることができるのは、教師の特権ではないでしょうか。

学級では、障害のある子どもたちのそれぞれの発達・興味にあわせた教材を考え、手作りの教具を使ったり、実際に体験することを通して学びことを大事にしています。授業作りには毎日のように追われていますが、そこがやりがいのあるところでもあります。子どもたちの心からのかしこくなりたいたいという思いに触れて、自分も負けていけない、頑張っていかななくては逆に励まされることもしばしばです。

実をいうと、私は、大学入学時には明確に教師になろうと思っていた訳ではなく、障害児教育専攻（現在の特別支援教育専修）にも全く興味はありませんでした。（当時は2回生時に希望をとり、各専攻に分かれることになっていました。）障害児教育専攻に魅せられたのはいつか。そのはじめは、障害のある子どもの余暇支援サークル『なかよしひろば』に入ったことでした。はじめての参加で、それまで障害のある子どもとほとんど関わったことのなかった私は、どうしたらいいかわからず、子どもが投げるボールを拾っては渡し、また投げられては拾いに行き…をひたすらくり返しへとへとなりました。でも、なぜかまた次も行ってみようと思ったのです。今思えば、そのほとんど会話もないくり返しやりとりの中だけれど、何かしらその子とつながることができたと感じられた瞬間があったのだと思います。障害のある子どもとのつながり、その子どもの保護者とのつながり、サポートする者同士でのつながり、といった人と人とのつながりを実感することのできる魅力が障害児教育にはありました。いつの間にか大学生活は障害のある子ども・人と関わる活動が主になっていました。

今もその魅力は感じ続けています。こちらの思いが子どもに伝わったとき。親御さんと子どもの成長と一緒に喜びあえたとき。子どものよりよい発達を願って教員同士で論議ができたとき。今後もそんなつながりを積み重ねながら教育を進めていきたいです。

奈良教育大学附属小学校
特別支援学級 勤務

いざわ ゆきこ
猪澤 由起子さん

（教育学部学校教育教員養成課程
教育発達・基礎コース 障害児教育専攻 2006年3月卒業）



春のおでかけ



夏キャンプ



『なかよしひろば』サークルでの活動中 冬キャンプ



授業中の絵本の読み聞かせ



奈教のひみつ

学生広報スタッフ
“なつきよん's CLUB”
企画

番外編～大学公式ホームページ～

本学では、大学公式ホームページを開設し、学内外の方へさまざまな情報を発信しています。より見やすく迅速に情報発信できるよう平成24年4月にリニューアルしたホームページについて、紹介します。

奈良教育大学公式ホームページ

<http://www.nara-edu.ac.jp/>

HPへGO!



これが奈教のHPだ!!

入学前の方

在学中の方

入 学後、学生生活を送るにあたって必要な情報を掲載しています。

本 学に入学を希望される方に向けて必要な情報を掲載しています。

大 学案内や募集要項などを請求できます。

教 育学部で取得できる免許状などを紹介しています。

学 内外で活躍する学生を紹介します。

イ ベントや取組を紹介しています。

入 学を希望される方へ、在学生からメッセージ等を掲載しています。



「お 知らせや「入試情報」などを発信しています。

最 新の募集やイベント情報、実施済みのイベント、取組を紹介しています。

「イベント情報」を発信しています。

在学生の一週間や、教育実習体験記も見ることができるんだ

奈教での学びが詳しくわかるんだね!



これが奈教のHPだ!!

入学前の方

在学中の方

▶ 入学希望の方へ からさまざまな情報を確認できます。

▶ 教育・学生生活

▶ 教務関係

▶ 授業時間割・シラバス検索

➡ 授業のシラバスなどを見ることができます。

▶ 教育・学生生活

▶ 就職関係

➡ 就職支援の取組や卒業生、修了生の進路・就職状況等を見ることができます。

▶ 教育・学生生活

▶ 学生生活・厚生関係

➡ 授業料免除や奨学金等の情報を見ることができます。

▶ 教育・学生生活

▶ 課外活動関係

➡ 学生団体・各クラブの紹介やボランティア等の情報を見ることができます。

▶ 国際交流・留学

➡ 国際交流室や留学等の情報を見ることができます。

授業についてや
クラブ活動のことも
チェックできるね!

これが奈教のHPだ!!

入学前の方

在学中の方

▶ 在學生の方へ からさまざまな情報を確認できます。

▶ ログインツール

➡ Web メールや学務情報システムなどログインして利用するページをまとめています。

▶ 全学生へのお知らせメール一覧

➡ 大学から全学生に向けて送られたお知らせメールを確認することができます。

▶ 休講情報

▶ 補講情報

➡ 休講及び補講の情報を見ることができます。

▶ どこが窓口ですか?

➡ さまざまな手続の方法や担当部署を紹介しています。

▶ 緊急時対応マニュアル

➡ 緊急事態が発生したときにどう対処すればよいか紹介しています。

▶ 授業・実習等関係

▶ 就職

▶ 学生生活

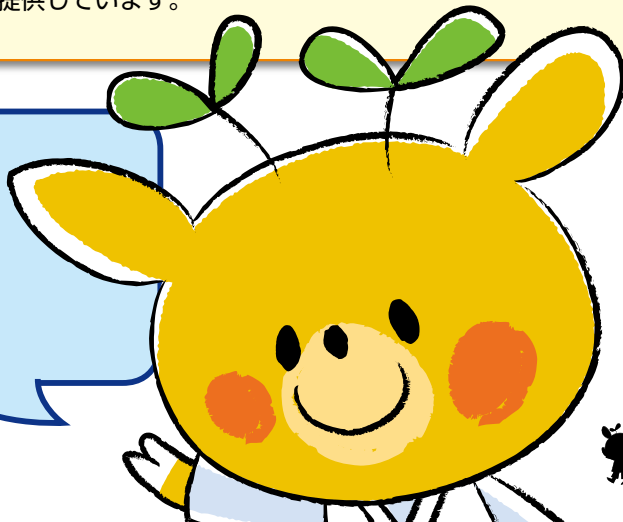
▶ 国際交流・留学

▶ 課外活動

➡ それぞれ学生生活を送る上で必要な情報を提供しています。

これを使えば、
学生生活がもっと
便利になるね!

ぜひ大学公式ホームページを活用し、
さまざまな情報をつかんでください。
今後とも、よりよいホームページを
目指していきます。
皆様のご意見をお待ちしています。





大学懇談会に参加したメンバーらと(大西さん:下段中央)

Profile[★]

プロフィール

教育学部 学校教育教員養成課程

言語・社会コース 2年生

大西 優さん 滋賀県立守山高等学校出身



地域の方や教員らと語り合うことができた。

自由に語り合って大学活性化 ～大学懇談会実行委員の取組～

平成25年1月9日、なつきょん食堂を会場に大学懇談会が開催されました。これは、日頃接点の少ない地域や後援会・同窓会の方、学生や教職員が自由に語り合うことで交流を深め、大学の活性化につなげることを目的に、学生主体で毎年企画、実施しているもので、今年で6回目を迎えました。今回は、学生自治会に所属し、大学懇談会実行委員長として活躍された大西優さんに話を聞きました。

成功裏に終わった大学懇談会

大学懇談会実行委員は、学生自治会、体育会、文化会、大学祭実行委員会、生協学生委員会、報道会、橘宿舎、国際学生宿舎の各代表者総勢 15 名程度で構成されます。11 月の初旬から準備を始め、テーマや話す内容、当日の準備や流れなどを話し合いました。テーマは 7 つ用意され、学内や地域の話など、さまざまなジャンルを取り入れ、議論しやすいよう工夫されています。また、地域の方へのチラシ配布など、多くの方に参加していただけるよう、広報活動にも力を入れました。その甲斐あって、当日はおおよそ 70 名もの参加があり、盛会の内に終えることができました。

「当日までの準備では、どのように人を動かしていけば良いか悩んだ。次に何をすれば良いのか、段取り等を事前に把握しておくべきだった。」と話す大西さん。初めてのことで、人を動かす難しさを感じたようです。

大学懇談会実行委員長を経験して

無事に懇談会を終え、やり遂げられたことに達成感と大きな喜びを感じているという大西さん。しかし一方では、もっとこうすれば良かったという気持ちもあり、次回への課題が発見できたようです。

また、大学懇談会実行委員長という大役を通して、一つの目標に向かって努力していく根気強さを得ることができました。限られた時間、日数の中でどうすればより良いものになるか皆で考え、来ていただいた方に、来て良かったと思ってもらえるように、根気強く取り組んだ結果です。

さらに、委員長として調整役やまとめ役を引き受けた経験は、今後教員になった時に生かせるものだ、と大西さんは考えています。「特に、

大学懇談会の今後

毎年開催されている大学懇談会ですが、なかなか学生に認知されていないのが現状です。また地域の方の参加もまだまだ少ないです。今後の大学懇談会について大西さんは、「日々接点の少ない人とコミュニケーションが取れる機会というのはなかなかありません。大学懇談会を通してたくさんの人と交流して欲しいです。この記事を見て少しでも多くの学生が認知し、参加して欲しいと思っています。また、地域の方にももっと積極的に参加して欲しいです。多くの方の参加により、もっと活発になります。」と考えており、更なる発展が期待されます。

読者へメッセージ

「受験生の皆さん、受験勉強においてしんどいこと、つらいことがあると思います。私も大学受験の中でしんどい時期がありました。ただ、諦めずに勉強を続けました。やはり諦めない気持ちが大切です。今の私があるのは、大学受験時の頑張りがあったからです。また、将来教員になりたいという強い思いも必要です。どんなことがあっても前向きに頑張ってください。結果は必ずついてきます。応援しています。」

「在学生の皆さん、私は学生自治会に入り、有意義な時間を過ごしています。行事に主体的に関わることができ、毎日が楽しいです。当初面倒だと思っていた大学懇談会実行委員も、もっと積極的に行事に参加しようと思えば、楽しくなってきました。やはり、自分から楽しむという意識が必要だと思います。時には悩み、迷うこともありましたが、良い経験になったと思います。是非積極的に行事に参加してください。勉強も大切ですが、4年間の大学生活を楽しく有意義に過ごしてください。」



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属13団体、体育会所属27団体の課外活動団体があり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、合唱団コールグレイスです。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会)すざのこ
- 書芸部
- 漫画研究会
- 歴史研究会
- 舞台工房KATE
- 地歌争曲部

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

【学生団体・クラブ紹介】 http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

合唱団コールグレイス 部員数13名

創部時期は、具体的には不明。少なくとも20年以上前。現在の部員数は(2013年1月現在)13名(男性5人 女性8人)(1回生7人、2回生1人、3回生1人、4回生2人、院生1人、顧問の森本先生)で、昨年は6月にサマーコンサート、11月に大学祭公演を行いました。今年から合唱コンクールへの参加も視野に入つつ、活動に励んでいます。



11月・大学祭発表(講堂)

聴き手も歌い手も楽しめる歌を



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 数学教育専修 1回生
大阪府立北千里高等学校出身
合唱団コールグレイス部員
うめもと なおや
梅本 直哉 さん

合唱団コールグレイス(通称コルグレ)は、皆が集まれる時に楽しく歌おう!という方針で、どんな人でも楽しんで歌える部活動です。活動場所は放課後の音楽棟。活動曜日や時間は、部員たちの授業の時間割や予定に応じて調整しています。

この部にはかなりの歴史があり、一時期は部員数が50人を超えることもあったようですが、今は“合唱団”と呼べるほど部員がいません。しかし、部員たちは皆それぞれがコーラスを楽しもうとしていて、

とても雰囲気の良い部です。

部員が所属する専修は、理科、数学、美術、幼年などさまざまで、高校で音楽の授業がなかった、という人まで参加しています。ですので、経験者だけでなく、リズムは分からない、楽譜は読めない、ピアノも弾けない、でも歌うのは好きだから入った、という人もいます。

しかし、楽しく歌いながらも技術がついてくるのを実感し、一つひとつの歌を完成させ、サマーコンサートや大学祭の発表などを通じて皆さんに聴いていただき、拍手をいただくことで、自信を持ってまた次の歌への練習に励むことができます。

私たちは決して上手いコーラス隊ではな



1月・みんなで記念撮影

いと思います。合唱コンクールを目指した本格的なコーラス隊よりも、技術はかなり劣るかもしれませんが、自分たちも楽しみ、その歌声で、合唱を聴いている皆さんにもその楽しさが伝われば、それで構わないと思っています。

部員たち一人ひとりが心をこめた歌声を、皆さんがもっと感じ取れるように、これからも練習を重ね、より良い合唱へとしていきたいです。

活躍する奈教生

文化系

もりかわ ゆきえ
森川 幸恵さん(教育学部3回生)

- ◆ 第59回日本学書展
「文部科学大臣賞
(高等学校生徒・大学生 漢字)」

にしべ ゆかこ
西部 裕香子さん(大学院1回生)

- ◆ 第13回大阪国際音楽コンクール
ピアノ部門AgeU「第3位」

こぐち まき
小口 真季さん(大学院1回生)

- ◆ 第59回日本学書展
「奈良県知事賞
(高等学校生徒・大学生
仮名・漢字仮名交じり)」

おかだ あつこ
岡田 温子さん(大学院1回生)

- ◆ 第66回二紀展
絵画の部「入選」

やましろ かな
山代 佳奈さん(大学院2回生)

- ◆ 第22回日本クラシック音楽コンクール
全国大会ピアノ部門
一般女子の部「第4位」
- ◆ 第13回大阪国際音楽コンクール
ピアノ部門AgeU「入選」

体育系

むらき たくろう
村木 拓朗さん(教育学部2回生)

- ◆ 平成24年度近畿学生野球連盟
秋季リーグII部リーグ
「ベストナイン(外野手)」

ひろせ ともかず
廣瀬 友和さん(教育学部3回生)

- ◆ 第50回近畿地区国立大学体育大会
体操競技
個人総合「優勝」
床・鞍馬・吊り輪・平行棒・鉄棒「優勝」
跳馬「第2位」

こまつ たいき
小松 大樹さん(教育学部4回生)

- ◆ 第52回全国教育系10大学
バスケットボール競技大会
リバウンド部門「第1位」
得点部門「第2位」

いとう なおき
伊藤 直貴さん(教育学部3回生)

- ◆ 第37回近畿国立教育系大学
バドミントン選手権大会
男子ダブルス「優勝」
- ◆ 第53回全国国立教育系大学
バドミントン選手権大会
男子ダブルスB「優勝」

しんたに たいち
新谷 太一さん(教育学部3回生)

- ◆ 第37回近畿国立教育系大学
バドミントン選手権大会
男子ダブルス「優勝」

なかざと ゆうき
中里 優輝さん(教育学部3回生)

- ◆ 第53回全国国立教育系大学
バドミントン選手権大会
男子ダブルスB「優勝」

かきみ すぐる
垣見 駿さん(教育学部1回生)

- ◆ 平成24年度関西学生ハンドボール
秋季リーグ男子3部
「得点王」

弓道部

- ◆ 平成24年度リーグ戦男子4部リーグ
「優勝」
- ◆ 第28回全国教育系大学
弓道選手権大会
女子団体「準優勝」

【速報】

3月6日に学生表彰式を開催。学長表彰4名と学生委員長表彰33名・4団体を表彰しました。



9月28日



長友学長、松山理数教育研究センター長らと共に写真に収まる修了生

SST認定証授与式を実施

SST（スーパー・サイエンス・ティーチャー）のプログラムを修了した学生（第5期生）に、認定証が授与されました。本学では、高い教科専門性と優れた教育実践力をバランス良く兼ね備えた理数科教員を養成しており、その達成度の最上位資質が SST です。

SST は、理数教育研究センターの支援の下、理数科教育の抜本的改革に向けた取組を開始しており、新しい理数科教員養成システムの全国に先駆けの一つのモデルとして期待されています。

【理数教育研究センター】
<http://nesm.nara-edu.ac.jp/>

11月14日



現地での活動について報告する学生

東北教育復興支援ボランティア報告・座談会を開催

東北教育復興支援ボランティアに参加した学生と長友学長、加藤副学長及び派遣に関わっている教職員が参加し、報告・座談会を開催しました。現地での活動の様子や活動から得たことなどが報告され、今後の活動につながる良い機会となりました。

24 年 9 月までの間に、教育復興支援として学生等を 5 度被災地に派遣、小中学校で授業補助や学習支援を行っています。

【ボランティア・サポート・オフィス】
<http://www.nara-edu.ac.jp/OCPESS/volunteer/top.html>

本学では、平成 23 年 7 月から平成

11月25日



パネルディスカッションの様子

大学教育改革地域フォーラム2012 in 奈良を開催

奈良県大学連合(代表：奈良教育大学)では、文部科学省と共催で「大学教育改革地域フォーラム 2012 in 奈良」を開催、学生や教育関係者ら約 170 人が参加しました。

これは、文科省が大学教育の質的転換を促すために必要な課題や具体的な取組等に対応するため、大学、教員、学生等の立場から幅広く議論するべく開

催しているフォーラムの一環として行われたもので、文科省、産業界、教育界、大学、学生からパネリストを迎え、それぞれの立場から意見が出されました。フロアからの意見も含め、それぞれの立場での異なる見方や、学生の生の声を共有することができ、非常に有意義なフォーラムとなりました。

【奈良県大学連合】
<http://www.univnet-nara.com/>

12月5日



餅つきを楽しむ参加者

国際交流イベント「奈良実習園で餅つき！」実施

留学生と日本人学生とが交流するきっかけにしておうと、自然環境教育センター奈良実習園で収穫されたもち米を使って、餅つきを行いました。

鳥居センター長と箕作准教授から日本の餅についてのミニ講義を受けた後、早速蒸したもち米を臼に入れてつき始め

ました。参加者のほぼ全員が初めての餅つきとあって、うまく杵を操れずふらふらしたり、餅をつかずに臼をついてしまったりするなど、楽しい餅つきとなりました。

【国際交流・留学】
<http://www.nara-edu.ac.jp/international/>



9月24日



1年生、障害理解学習でゲストティーチャーの方々から学ぶ

〔附属中学校〕

附属中学校では、1年生後期の総合的な学習として障害理解学習に取り組んでおり、今回その一環で5人のゲストティーチャーをお招きし、グループに分かれて話を聞きました。ご自身が視覚障害や肢体不自由の障害を持ちながら、さまざまなことにチャレンジされ、豊かに、また力強く生きてこられた方々、障害をもつお子さんを育ててこら

れた親の立場の方、指導者として障害を持った人々を支えてこられた方など、多様なゲストティーチャーから、それぞれの立場、視点での話を聞いて多くのことを学びました。またその次の総合の時間には、各グループで学んだことをもとに学級での発表会を開き、学びを交流しました。

11月7日



体育科の校内研究授業を大学生も参観

〔附属小学校〕

11月17日の第40回教育研究会を前にして、テーマ「子どものための授業づくり-教材の価値と主体的な学び-」を具体的な教材をもとに校内で論議するために、11月7日に体育科の研究授業を行いました。ベースボール型ゲームについて、本校体育部が新たに教材開発した4年「すすみっこベース」に取り組みました。授業者は井上寛崇

教諭。ベースボール型ゲームの本質的な面白さと価値を踏まえながら、「簡易ベースボール」ではない新たなゲームの開発を目指しました。授業は大学の体育科の先生や学生にも公開され、授業後の研究討議に参観した学生は白熱した論議に教材研究の面白さを感じてくれていました。

11月8日



附属中学生が幼稚園に来たよ

〔附属幼稚園〕

附属中学校の3年生が幼稚園に遊びに来てくれました。

幼稚園の子どもたちには心地よくうれしかったようです。普段関わることの少ない、大人でもない子どもでもない中学生とのかかわりは、とても良い体験になりました。

初めはドキドキして話せなかったり、緊張してじっとしている子もいましたが、一緒に歌を歌ったり膝に乗せてもらったりというふれあいの時間が経つにつれ、みんな笑顔になりました。園児のしたい遊びに付き合ってくれたり、「かわいいね」って何度も言ってくれたりする中学生の優しさが、

中学生の中には卒園児もあり、今いる園児達もいつの日か中学生になって幼稚園に遊びに来てくれることが楽しみです。

奈良に息づく仲間たち

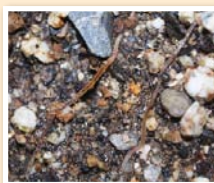


自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



光るミミズ

本学構内には、フトミミズ科9種のミミズが確認されている。最近、本学卒業生の吉田宏さんによって、管理棟南の植え込みで、新たにホタルミミズの棲息が確認された。長さは2cmくらいで、姿は線虫のように見える。このミミズは全国に広く分布しているらしい。植木と一緒に運ばれて、分布



▲地上徘徊



▲発光



▲糞塊

写真：吉田宏氏撮影

拡大しているようにも思える。このミミズはホタルの名前がついているように、発光するのである。しかし、ホタルのように発光器を持っているわけではなく、刺激を受けると口や肛門、背孔から発光する粘液を出すと言う。体を傷つけても粘液が出て発光する。私も採集してきて、暗くして、ピンセットで突っついて、発光を確認した。この発光粘液は、乾燥しても、水に戻すと発光するとも言われている。ホタルミミズの糞塊は写真のように細かい粒が特徴的なので、他のミミズとの区別は容易である。興味をお持ちになったら、探してみてほしい。

〔自然環境教育センター〕 <http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

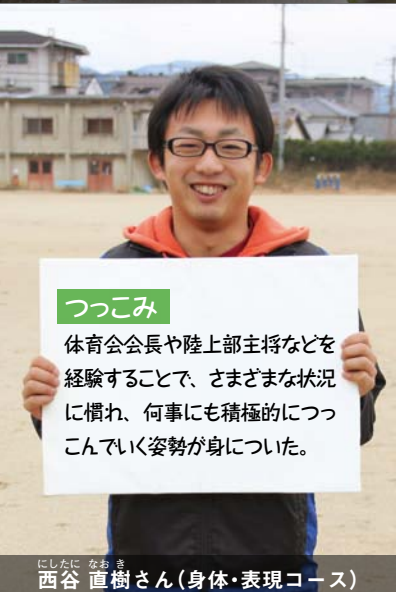




仲間

高校までのクラスと違い、4年間一緒に過ごした仲間。仲間なしでは、教採を乗り越えられなかった。卒業後も続く大切な関係。

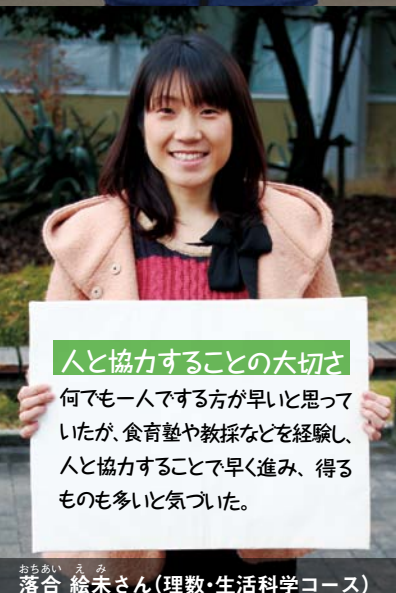
いる べ あかね
磯部 茜さん(理数・生活科学コース)



つっこみ

体育会会長や陸上部主将などを経験することで、さまざまな状況に慣れ、何事にも積極的につっこんでいく姿勢が身についた。

にしたに なな き
西谷 直樹さん(身体・表現コース)



人と協力することの大切さ

何でも一人でやる方が早いと思っていましたが、食育塾や教採などを経験し、人と協力することで早く進み、得るものも多しと気づいた。

おちあ い え み
落合 絵未さん(理数・生活科学コース)

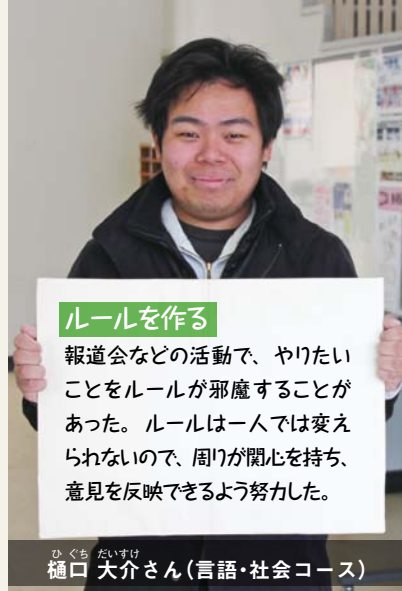
奈教生に

聞きました!

vol.7

奈教で得たもの

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。今回は、卒業される皆さんに在学中を振り返っていただき、「奈教で得たもの」について聞きました。



ルールを作る

報道会などの活動で、やりたいことをルールが邪魔することがあった。ルールは一人では変えられないので、周りが関心を持ち、意見を反映できるように努力した。

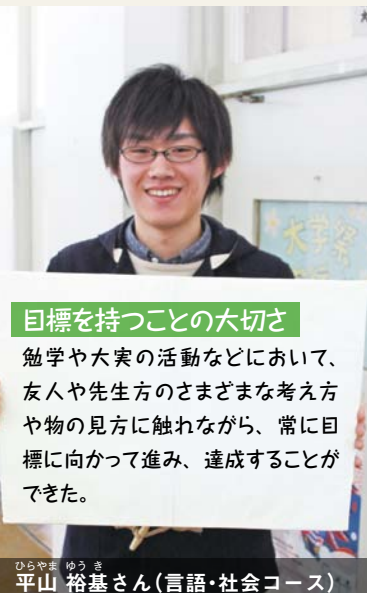
ひ ぐ ち だ い す け
樋口 大介さん(言語・社会コース)



自主性

学びたいことを自分から自主的に学べるのが大学。卒業要件以外の教員免許を取ったり、教採対策講座に参加したり、やろうと思えばいろいろできる環境がある。

み た の そ み
御館 希さん(言語・社会コース)



目標を持つことの大切さ

勉学や大実の活動などにおいて、友人や先生方のさまざまな考え方や物の見方に触れながら、常に目標に向かって進み、達成することができた。

ひ ら や ま ゆ う き
平山 裕基さん(言語・社会コース)



遊び心

意欲は楽しさから。教師が楽しむ様子を見て、子ども達は引きつけられる。いかに自分が楽しむかが大切で、それを支えるのが遊び心。

なか の ま ゃ
中野 麻由さん(教育・発達基礎コース)



キャリアデザイン力

ボランティア・サポート・オフィス学生スタッフとして活動し、企画力・運営力・広報力・コミュニケーション力などを身につけることができた。

お り と だ い す け
折戸 大輔さん(言語・社会コース)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QRコード対応の携帯電話にてアンケートに回答いただくことができます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なつきよん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務企画課広報担当まで、お気軽にお問い合わせ下さい。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第42号 平成25年3月22日 編集／広報委員会 発行／国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>